



3月の園だより

令和 7 年 3 月 1 日
目黒区立菅刈保育園長

昼夜の寒暖差はありますが、日中のポカポカとした陽気が春を感じさせてくれます。

「ただいま」という子どもたちの元気な声が玄関に響き、「おかえり」と出迎えに行くと、子どもたちは「あのね、葉っぱあったよ」「桜が咲いていたの」「桜綺麗だった」と、たくさん話を聞かせてくれます。特に 1 歳児の子どもたちは伝えたい気持ちが溢れてくるため矢継ぎ早に話が広がりますが、これも楽しい日課です。0 歳児は、小さな手に持った葉や実をそっと見せてくれました。「わあ、素敵ね」と声を掛けると、私の顔を見て微笑み返す眼差しは“同じ気持ち”を感じてもらえた喜びのようです。体を見ると芝や砂が付いており、全身を使って遊んできたことは言うまでもなく、逞しく遊ぶ姿に一年間の成長を感じられます。

5 歳児クラスは毎朝、人数報告当番を行ってきました。2 人ずつ事務所に来ると「おはようございます」という元気な挨拶から始まり、3 クラス分の用紙を見て報告してくれます。春の頃はたどたどしい子も多かったのですが、友達と声を揃えて自信を持ちながら人数を読み上げる姿へと変わっていきました。最後にはインタビューコーナーを設け、私からの質問です。「今日は東山公園で何をして遊びますか」「クッキー作りの何が楽しみですか」など内容は様々ですが、照れながらも素直に答える姿は愛らしいです。私にとっても子ども一人一人と会話できる貴重な時間となっています。これからは 5 歳児が 4 歳児に人数報告当番の引継ぎを行っていきます。手本となる 5 歳児を見て 4 歳児はどのような姿を見せてくれるのか事務所で待つのが今から楽しみです。

保育園では自分の言葉で相手に伝えたいという気持ち、伝わったことの喜びを日頃から大切にしています。子どもたちが話したいと思う時は心が動かされている時です。「ちょっと待ってて」の一言でタイミングを逃さず、その時には手を止めて「そうなのね」と相槌を打つことが本当に大切なのだと思います。保育園の生活の中で人に伝えることの喜びを知ることは、小学校へ行った時に自分の気持ちをきちんと表現出来る力へと繋がっていくと思います。

今年度一年間、保護者の方と一緒に子どもの成長を共に見守らせていただきありがとうございました。



今月の予定

身体計測（乳児）
身体計測（幼児）
卒園式
仲良し散歩
（3、4、5 歳児クラス）

避難訓練
新クラスへの移動日
お別れ会





1年で心も身体も大きくなりました。子どもたちの成長した姿をお伝えします。



つぼみ組（0歳児クラス）

入園した頃はまだ腹這いや這い這いだだった子どもたちも、今では全員が歩けるようになりました。好きな玩具を見つけて遊んだり、スプーンを持って「まんま」と言いながら自分でご飯を食べられるようになったりと成長を感じます。簡単なやりとりが出来るようになると、“あれやりたい”“あっち行きたい”などの思いを仕草や簡単な言葉を使って知らせてくれる姿も出てきました。また、始めの頃は保育士と手を繋ぎ楽しんでた触れ合い遊びの「おすもうくまさん」をする時には、保育士と関わるだけでなく、友達と手を繋いで楽しむ、そんな微笑ましい光景が見られるようになりました。

これからもたくさんの「初めて」を経験する子どもの気持ちにその都度共感して寄り添い、子ども同士の関わりを大事にしていきたいと思います。

すみれ組（1歳児クラス）

散歩先の公園に着くと、切り株を囲みながらしゃがんで遊んでいる3人の子どもたち。覗いてみると、枯れ葉をちぎっている子、葉っぱや枝を溝に入れて落としている子、砂をつまんで乗せている子と、それぞれの遊びを夢中で繰り返していました。友達と一緒にいることが心地良いのだと感じます。また、室内で遊んでいる時、洗濯ばさみで指を挟んでしまい泣いている子に「痛かったね」と保育士が話すと周りの子が布を持ってきてその子の身体に当て始めました。「ありがとう、冷やしてくれるのね」と話すと、その手の先にある保育士の手にも次々に布を当て、皆で「あらら」と笑い合うと痛みも治まっていた。「あらら」のおかしさの魔力に包まれる子どもたち。痛みも忘れるほど心を緩め、共感している姿にひと回りも心が大きくなったのだと感じます。これからも一人一人の「楽しい」を一緒に体験する中で、気持ちに共感していくことを大事にしていきます。



ひまわり組（2歳児クラス）

友達との関わりが楽しくなってきた子どもたち。菅刈タウンが終わると、早速再現して「いらっしゃいませ」とお店屋さんが始まりました。周りの子どもたちも「いれて」と言いながら子ども同士のやりとりが増えて楽しむようになっています。一方でまだ「ダメ」「〇〇ちゃんが」などと自己主張をしている子もいます。今、友達とのやりとりを楽しんでいる子たちが以前にしっかりと自己主張していた姿と重なり成長を感じます。

散歩先では集団遊びも盛り上がっています。「むっくりくまさんやりたい」「だるまさんが転んだがいい」と意見はぶつかりますが、保育士が「順番にやろうか」と聞くと、「いいよ」と自分のやりたいことを少し我慢しても「友達と一緒に遊びたい」という気持ちが育ってきています。

これからも遊びを通して友達と関わることの楽しさが味わえる経験をたくさん積み重ねていきたいと思います。





りす組（3歳児クラス）

園庭でたくさん遊んできた子どもたちは、いつも同じ場所で遊ぶ中で“この子とこれがやりたい”と目的を持って遊び出す姿が見られるようになってきました。「一緒に恐竜のお家作ろうよ」「いいよ、恐竜の食べるお肉も持って来よう」と誘い合うだけでなく、何かになりきったり、必要なものを自分たちで準備したりして、友達と具体的なイメージを共有して遊んでいます。その中で思いの違いから友達とトラブルになることもたくさん経験し、自分の思いを伝えるだけでなく相手にも思いがあることに気づき、大好きな友達とどうしたら楽しく遊べるかを考えられるようになってきました。

“一緒に遊びたいから友達の話聞いて”という思いの繰り返し、友達関係の広がりや遊びの広がりにつながったと感じています。友達との関わりの中でお互いに気持ちを通わせながら、心も体も大きく成長した子どもたちです。



うさぎ組（4歳児クラス）

友達の存在が大きくなり、気の合う友達や集団で遊ぶことが増え、だるまさんが転んだやドロケイなどルールのある集団遊びを子どもたちで進められることが多くなってきました。自分たちで遊びを進める中で、「動いたら、元の場所に戻ることにしようよ」「それもいいね」「じゃあ、次は〇〇してみようよ」など、思い付いた事を友達に伝えながら、子どもたちだからこそ考えられる新たなルールを生み出し、提案していくことで、さらに遊びを発展させて楽しむ姿も見られる様になってきました。

子ども同士で考えを出し合い、相談して進めていこうとする姿は集団としての成長や頼もしさを感じます。今後も一人一人やクラスとして互いに育ち合い、どんな成長の姿を見せてくれるか楽しみです。

きりん組（5歳児クラス）

きりん組の22名は日々の生活やたくさんの行事の中で、仲間との絆を深めてきました。先日行われた菅刈タウンでは、友達と意見を出し合い、自分たちで考え、お店を作り上げました。1年間での様々な経験を通して自信を付けてきた子どもたちは、相手にしっかりと自分の気持ちを伝える事が出来るようになりました。意見が分かれて決まらないこともありましたが、すぐに大人に頼らずに「でもこれだと、〇〇になるよね」「これはどう」「これならいいよ」と子ども同士で話し合い、自分たちで解決しようとしていました。友達の良いところを知っており、認めているからこそ、相手の意見を尊重して聞き入れようとする姿に繋がっているのだと感じます。

保育園生活で培った一人一人の素敵なのが、小学校でも輝いていくことを期待しています。

